

各務原市教育委員会  
事務事業点検・評価（外部評価）  
（令和6年度事業）

令和7年8月  
各務原市教育委員会

## I. はじめに

### 教育委員会事務事業の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならない。

各務原市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施し、その結果をまとめた。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II. 点検・評価の実施方法について

### 1. 点検・評価の対象

令和6年度に教育委員会が実施した事務事業の内、対象事業の執行状況について点検・評価を実施する。

### 2. 点検・評価の進め方

#### (1) 自己評価

教育委員会事務局において、評価基準を参考に自己評価を行う。

#### (2) 外部評価

点検評価にあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した点検・評価の結果について、4名の事務事業点検評価委員から個別に所見等を聴取する。

#### (3) 総合評価・報告

評価委員の所見等及び教育委員会委員から総合的な意見を踏まえて報告書としてまとめ、議会に報告した後、市ウェブサイトにて公表する。

### 3. 評価基準

視 点		判 定	
必要性①	事業の目的が市民ニーズや上位の目的に照らして妥当か	◎	事業の目的が市民ニーズや上位の目的に照らして非常に必要性の高い事務事業である
		○	事業の目的が市民ニーズや上位の目的に照らして必要性の高い事務事業である
		△	事業の目的が市民ニーズや上位の目的に照らして必要性の低い事務事業である
		×	事業の目的が市民ニーズや上位の目的に照らして必要性のない事務事業である
必要性②	教育委員会・行政の関与の在り方から見て、教育委員会・行政が担う必要があるか	◎	教育委員会・行政関与の必要性が非常に高い事業である
		○	教育委員会・行政関与の必要性が高い事業である
		△	今後は民間・国・県の関与を拡大すべき事業である
		×	今後は民間・国・県が主体的に行うべき事業である
効率性	投入された予算や人員等の量に見合った効果が得られるか、また実際に得られたか	◎	事業を推進する上で行政資源量を節減できない
		○	効果がより少ない予算・人員等で得られる、または同一の予算・人員等でより大きな成果が得られる余地がある
		△	さらなる予算・人員等が節減できる、または同一の予算・人員等でより大きな効果が得られる余地がある
		×	予算・人員等がかなり節減できる、または同一の予算・人員等で大きな効果が得られるかなり余地がある
有効性	事業実施により期待される成果が得られるか、または実際に得られたか	◎	期待以上の成果がある(今後さらに向上の見込みがある)
		○	期待した通りの成果がある(今後向上の見込みがある)
		△	期待したほどの成果が見られない
		×	成果が少なく今後も向上の見込みがない
今後の方向性	必要性・効率性・有効性の評価を踏まえた事業の方向性	拡充・重点化	
		現状どおり	
		見直し	
		縮小・整理	
		休止・廃止	

### Ⅲ. 点検・評価(総括)

#### 1. 自己評価

令和6年度に実施した教育委員会の事務事業の内、主要13事業について、自己評価を行い、結果は下表の通りであった。

	◎	○	△	×
必要性①	13	-	-	-
必要性②	12	1	-	-
効率性	10	3	-	-
有効性	9	4	-	-

今後の方向性	拡充・重点化	現状どおり	見直し	縮小・整理	廃止・休止
	4	8	-	-	1

#### 2. 総括

今回の点検・評価は、教育委員会の権限に属する事務事業のうち主要なものを抽出して行った。点検・評価にあたっては、単年度の評価に留まらず、事務事業の経年的な比較分析を重視し、効率的、効果的に執行されているかを確認した。

また、従前より評価を受け改善等に取り組んできた事業のほか、新たに5事業を対象事業とし、13事業について、点検・評価を実施した。

各事務事業は、各務原市教育ビジョンに掲げる基本理念「笑顔があふれる元気なまちへ～心豊かで文化を育む人づくり～」の実現に向け、概ね適正に実施されており、市民の願いや実態をより踏まえた事業が多く展開されている。

以下、評価委員の総括・評価

・以前から実施している事業を工夫・改善して継続していることが見受けられた。今後もこうした事業を継続発展させていきたい。

・事業担当課内のつながりだけでなく、他部署を含めた横断的な連携を意識して事業を実施していることが感じられたので、今後も継続してほしい。

・相談窓口の多さや職員配置など、施策が充実しており、様々な事業が展開されているが、それが子どもたちにとって本当に必要であるのか、子ども目線に立って考えながら進めてほしい。

## IV. 点検・評価(事業別)

### 事業一覧

※第3期教育振興基本計画(教育ビジョン)に掲載している事業の内、対象13事業について、評価を受ける。

#### 基本目標1 学校教育の充実

基本施策	主要事業	事業番号
たくましく生き抜く力の育成	基礎学力定着事業	1
安心して学べる教育環境の提供	不登校対策事業	2
	特別支援教育アシスタント配置事業	3
	Futuro教室運営事業	4
	部活動地域展開事業	5
	学校プールのあり方検討事業(水泳教育推進事業)	6
学校等施設・設備の充実	新特別支援学校整備事業	7

#### 基本目標2 青少年教育の充実

基本施策	主要事業	事業番号
家庭の教育力の向上	子育て広場(家庭教育学級)事業	8

#### 基本目標3 学びの機会の充実

基本施策	主要事業	事業番号
生涯学習の充実	生涯学習講座実施事業	9

#### 基本目標4 文化芸術の振興と歴史・文化遺産の保護、利活用

基本施策	主要事業	事業番号
歴史・文化遺産の保護と利活用	文化財保護管理事業	10

#### 基本目標5 スポーツの振興

基本施策	主要事業	事業番号
地域スポーツ活動への支援	スポーツ指導者養成事業	11
	軽スポーツ用具貸出事業	12
スポーツ施設の充実	新総合体育館整備推進事業	13

# 令和6年度事業点検・評価シートの見方

		新型コロナウイルスの影響の有無			
PLAN ・ DO	事業番号	IV. 点検・評価（事業別）の事業番号欄の番号を記載		担当課名	新型コロナウイルスによる影響の有無を記載
	基本施策	教育ビジョンは5つの基本目標ごとに基本施策と主要事業を定めて体系化しており、基本施策と事業名を記載			
	事業名				
	事業目的	事業の目的及び内容を記載			
	事業内容				
	達成指標	教育ビジョンの指標、または各課で定めた指標を記載 指標は数値目標など客観的指標のほか、市民の満足度などの主観的指標や事業の質の向上を目指す指標などがある		令和5年度	令和6年度
	達成指標の成果	指標の成果を記載			
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	予算または決算見込み額（決算後は確定額）を記載 ( ) 内は国県費等の特定財源がある場合に記載			
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	前年度に、評価委員からいただいた意見や指摘に対して改善した事項を記載 また、外部評価対象外であった事業は各課で業務改善した内容を記載			
	実績・成果	実績・成果を記載			
CHECK	自己 評価	必要性①	評価基準 に基づき 自己評価 を記載	評価 理由	自己評価の評価理由を記載
		必要性②			
		効率性			
		有効性			
		今後の方向性			
外部評価委員の知見	点検評価委員からのご提言やご意見を記載				
ACTION	令和6年度を終えての課題	令和6年度を終えての課題を記載			
	課題に対する取組、事業 効果向上に向けた次年度 の取組や方向性	課題を踏まえて、次年度に取り組みすることを記載			

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	学校教育課

P L A N ・ D O	事業番号	1				
	基本施策	たくましく生き抜く力の育成				
	事業名	基礎学力定着事業				
	事業目的	放課後等に教員経験者や、地域の方々、教職を目指す大学生が講師となり、基礎基本の確実な定着を図るための学習室を開設したり、基礎基本定着問題集を作成して配付したりすることで、児童生徒の基礎学力の向上を支援する。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本定着問題集を作成し、児童生徒が使用するタブレットの授業支援アプリ(ロイロノート)を通じて配付する。</li> <li>ららら学習室【ホップ】小3を中心に、年約20回各校で開催する。【ステップ】小4～6を対象に、隔週土曜日に、市内4会場で開催する。【ジャンプ】平日の夕方に、市内にある施設8会場において各会場年間40回程度開催する。</li> </ul>				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		ららら学習室の継続的な開催、児童生徒アンケートの満足度90%以上				
	達成指標の成果	わかる、やる気になる、楽しいいずれも90%以上	わかる、やる気になる、楽しいいずれも90%以上	わかる、やる気になる、楽しいいずれも85%以上	わかる、やる気になる、楽しいいずれも85%以上	わかる、やる気になる、楽しいいずれも90%以上
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	6,013千円	5,720千円	8,004千円	7,233千円	6,911千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> <li>R5は会場を2会場増やし、ステップ(小4～6)の利用人数が増えた。</li> <li>コミュニティスクール事業との連携を見据えた小中の接続に向け、小学校6年生の「ジャンプ」への受入れを行っている。</li> </ul>				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本定着問題集を作成し、市内小学校3年生から中学校3年生までに授業支援アプリを通じて配付し、学校や家庭学習、放課後学習室などで活用した。</li> <li>ららら学習室ホップは、平均20回程度実施し、411名の児童が参加し、139名の地域講師が学習支援を行った。</li> <li>ららら学習室ステップは、年間20回実施。84名の児童が参加し22名の地域講師が学習支援を行った。</li> <li>ららら学習室ジャンプは、年間40回実施。116名の生徒が参加し37名の地域講師が学習支援を行った。</li> </ul>					
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	小学校3年生以降、様々な要因から学習環境に課題を感じている児童生徒を支援する必要がある。	
	必要性②	◎	教員経験者や地域講師を確保し、継続的に学習支援をすることで、塾に通っていない児童生徒への基礎学力の定着につなげる必要がある。			
	効率性	◎	ららら学習室を希望する児童生徒は増加傾向にあり、今後についても、運営コストを節減できない。			
	有効性	◎	参加した児童生徒に対するアンケートにおいて、「わかった」「できた」「やる気になった」と肯定的な回答が得られている。テストの点数に反映された児童生徒もいる。			
	今後の方向性	拡充・重点化	児童生徒の参加人数は増加傾向にあり、保護者のニーズも多様化しているため、引き続き学習への困り感を抱える児童生徒を支援するための事業として開催回数等事業の拡充を検討する必要がある。			
外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>この事業は生活が困窮している家庭の児童生徒に対して、学びの保障を行う意味でスタートしたと記憶している。経済格差が学力格差につながることに懸念されるようになって久しいことから、この事業はさらに継続させていくことが望ましい。</li> <li>利用者のニーズを満たすことができるようにするためにも、講師の確保が必要と考えられる。そのための具体的な対策があるとよい。</li> <li>中学生は自学自習が原則であるが、公営の塾に徹し、講座形式でカリキュラムを作り徹底的に行う方が場所の提供より良いのではないかと。もしくは、自学する事が苦手な者には小学生のようにテキストがあって、それを計画的に実施させていくという方法もあると思う。</li> <li>学習塾が随分と増え、遅くまで勉強している子もいる。朝起きられず、学校へ遅刻し、塾へは車中でお弁当を食べさせ、日曜も弁当持参で通わせているという話を耳にしたことがあり、本末転倒ではないかと感じていた。この事業は「勉強＝楽しい」と意識できるよう、是非、継続してほしいと思う。</li> <li>参加する児童生徒が参加そのものが目的になっていないかが気になる。利用人数を増やすことだけでなく、内容も工夫してほしい。</li> </ul>					
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒及び保護者に周知されてきており、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」を長年継続して取り組んでいる児童生徒もいる。</li> <li>保護者のニーズにより、柔軟な対応が必要になる。中学生に兄弟がいる小学生の「ジャンプ」参加など、必要な児童生徒及び保護者に、必要な支援を行き届かせることが必要である。</li> <li>講師の確保に努めていく。</li> <li>一般利用者から、学校のテスト前の利用を望む声をいただいている。</li> </ul>				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に多くの成果があがっていることの周知方法を工夫する必要がある。</li> <li>人数が増えた教室においても、地域講師の適切なかわりや、児童生徒の満足感につなげていく必要がある。</li> <li>児童生徒の学力向上を支援するとともに、学習機会を創出するため、開催回数等の拡充を検討していく必要がある。</li> </ul>				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
-----------------	---

事業番号		2				担当課名	学校教育課
基本施策		安心して学べる教育環境の提供					
事業名		不登校対策事業					
事業目的		様々な理由から長期にわたって登校できていない児童生徒に対して、家とは別の居場所を提供する。教育センターすてっぴや教育支援センターあすなる教室とともに、保護者等の相談の窓口のひとつとして、さくらを設置する。 各自の抱える心理的課題を軽減するとともに、自分の興味のあることを行う活動を通して、自分のよさと可能性に気づき、社会的自立に向けて一歩踏み出す自分づくりを支援する。					
事業内容		通室する児童生徒の活動の見守りや補助を行うコーディネーターを1名、支援員を1名配置する。 ・不登校児童生徒への居場所を提供する。(環境設定) ・不登校児童生徒への寄り添い、活動の支援を行う。 ・家庭や学校、教育委員会(学校教育課・教育センターすてっぴや・あすなる教室)、子ども家庭支援課等と連携する。					
達成指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
達成指標の成果		令和2年度新設のさくらの周知を図る。	さくらの周知を図り、居場所を提供する。	さくらまえみやの周知を図り、居場所を提供する。	長期不登校状態にある児童生徒に対し、相談活動、居場所づくり、社会的自立への支援等を行う。	令和5年度に整えた施設等により継続して児童生徒を支援した。	
達成指標の成果		中学校毎に、教育相談担当者、養護教諭等に対して説明会を開催した。(全8校)	児童生徒・保護者向け説明会や教職員向け研修を行った。	R4.10.13にさくらまえみやを開室。学校に行きづらさを感じている児童生徒の居場所確保に努めた。	R5.4に学びの部屋ココカラを開室。学校に行きづらさを感じている児童生徒が学習に取り組める居場所とした。	令和5年度に整えた施設等により継続して児童生徒を支援した。	
予算・決算額(国費等)※ 過年度は決算額		2,139千円	1,246千円	39,099千円	4,571千円	4,416千円	
前年度の評価委員指摘に対する業務改善等		・不登校の態様や個々の状況が多様化しており、教育支援センター(あすなる教室・さくら・ココカラ)を保護者へ広めている。 ・長期欠席が続いている児童生徒が家から一歩踏み出せる場所として、「さくらまえみや」の利用者は増えている。					
実績・成果		・令和6年度の「さくら」は、毎月20人以上の児童生徒が利用しており、家庭から一歩外に出て、活動する居場所となっている。 ・「学びの部屋ココカラ」は、毎月5人前後の児童生徒が利用し、自分で決めた学習を自分のペースで静かに進められる環境となっている。 ・利用している児童生徒は、自分の好きな時間に通室し、自分が興味のあることを自分で選択して過ごしている。家から外に出て、家族以外の人と関わる中で、少しずつ自分自身のよさに気づいたり、自信をつけたりしている。					
自己評価	必要性①	◎	評価理由	令和6年度の不登校児童生徒は521人で、毎年増加しており、家以外の安心して過ごせる居場所が求められている。			
	必要性②	◎		教育委員会が家や学校以外の居場所となる教育支援センターを設置することで、不登校児童生徒が一歩踏み出し、個々の状況にあった場所を選択することで社会的自立につながる。			
	効率性	◎		コンセプトの異なる様々な教育支援センターを提供することで、本人や保護者の精神的負担等の軽減に繋がっている。			
	有効性	◎		自分で活動を決め、取り組むことで、エネルギーをためたり、自信をつけたりし、登校につながるケースも増えている。			
	今後の方向性	現状どおり		通室する児童生徒が少しでも社会とつながれる場を提供できるよう継続する。			
外部評価委員の知見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校になる要因は決して一つではなく多岐にわたっている。そうした一人一人に対するニーズを本市は非常に丁寧かつ手厚く支援しているのは素晴らしいと感じている。段階別対応、支援内容別対応、地域別対応等、複数の支援施設を各所に配置しているのは本市の特色でもある。</li> <li>・多様な対応の裏返しで、不統一感が気になってくる。今後は中心的施設(義務教育の出口、高等教育へのつなぎとなる施設)が必要ではないだろうか。学校再編で校舎に余裕が出てくることがあれば一考してほしい。</li> <li>・教育支援センター(あすなる教室・さくら・ココカラ)の周知を、児童生徒が節目となる時期に保護者へ行うとよい。</li> <li>・予算が令和5年度より減っているが、事業の内容を見ると、年々増加している不登校に対して力を入れていることがわかる。様々な家庭があり、様々な児童生徒がいる中、よく考えて対応してくださっていると思う。不登校＝ダメな子ではなく、心が繊細過ぎて学校へ行けなくなる子もいると思う。心の基地のような場になっていると思う。</li> <li>・家とは別の居場所として現在の4か所のほかにも、かかみがはら支援学校など市の施設を活用してもいいと思う。</li> </ul>					

ACTION	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の心の教室・学習活動室やそれぞれの教育支援センターのコンセプトについて広め、学校に行きづらさを感じている児童生徒やその保護者が個々の状況に応じて選択できるようにし、社会的自立に向けた支援を行う。</li> <li>・学校内外における教育相談、人間関係づくり等を充実させ、未然防止に務める。</li> </ul>
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に行きづらさを感じている生徒やその保護者が状況に合わせて、居心地のよい場所を選択できるようにしていく。</li> <li>・教育支援センターが学校に復帰ができた児童生徒や不登校傾向にある児童生徒の情報を学校と共有し、児童生徒の支援の方法を連携しながら考えていく。</li> <li>・学校では、教育相談週間を設けて、担任等が一人一人の児童生徒とじっくりと話をする時間をつくり、悩みを把握するよう努めている。また、「すてっぷ」では、学校に行きづらさを感じ始めた児童生徒の保護者と今後について相談している。教育支援センターでは、家族以外の人と関わる居場所として、今後も学校や保護者へ活動内容やコンセプトも含めて周知していく。</li> </ul>

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	学校教育課

P L A N ・ D O	事業番号	3				
	基本施策	安心して学べる教育環境の提供				
	事業名	特別支援教育アシスタント配置事業				
	事業目的	学校の中で、集団生活に支援を要する児童生徒への対応を充実し、教育的ニーズに応じた支援を行うことで、一人ひとりに自立して社会参加するための基礎となる力を育てる。				
	事業内容	市内の小中学校において、児童生徒が集団適応するための支援を行う特別支援教育アシスタントを、必要とする学校に配置するとともに、実態に応じて支援の年間時間数を配当する。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		市内全体の学校に支援が行き渡るように配置する。	加配の必要時間数を算出して配置する。	必要時間数を明確にする。	必要時間数を明確にする。	
	達成指標の成果	63人配置	68人配置 (5人増員)	75人配置 (7人増員)	79人 (4人増員)	80人 (1人増員)
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	31,899千円	31,680千円	31,616千円	35,602千円	35,659千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	特別な支援を要する児童生徒数と特別支援教育アシスタントの配置についてその妥当性について確認していく。				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度は80名の特別支援アシスタントを学校に配置した。</li> <li>特別な支援を要する児童生徒は、指示理解や学習や活動へ向かうことができるよう支援を受けることで、集団の中で落ち着いて学習に取り組むことができた。</li> <li>さらに学級全体が落ち着くことで、みんなが安心して学習・生活することにつながった。</li> <li>指示を聞き逃しがちな児童生徒や、自信がなく不安感をもっている児童生徒の支えになった。</li> </ul>					
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	通常の学級において、児童生徒にとって集団における活動が充実できるよう、特別な支援についてのニーズは高い。	
		必要性②	◎		特別な支援を必要とする児童生徒が増加しており、学習環境を整えていくために教育委員会が担うことが必要である。	
		効率性	◎		時間内で効率的に支援できるように調整を図って、アシスタントの支援が行き届くように取り組んでいる。	
		有効性	○		支援を受けて、集団の中で落ち着いて生活や学習を行うことができた。しかし、十分いきわたっているとはいえない。	
		今後の方向性	現状どおり		特別な支援を要する児童生徒に対応するよう継続する。	
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	通常の学級の中に、支援を必要とする児童生徒の数が増えている。特別支援教育アシスタントの関わり方をより効果的なものにしていく。				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	支援の必要な児童生徒の実態に応じて、より支援を必要とする学校への配置を行うことができるようにする。				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	学校教育課

P L A N ・ D O	事業番号	4				
	基本施策	安心して学べる教育環境の提供				
	事業名	Futuro教室運営事業				
	事業目的	支援が必要な外国人児童生徒が在籍校での学校生活を円滑に進めるため、初歩的・基礎的な日本語指導や生活指導を含む適応指導をFuturo教室で一定期間集中的に行う。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内在住の小1～中3までの基礎的な日本語の習得が必要な外国人児童生徒を対象とし、日本の学校生活に慣れるための適応支援と国語(日本語)・算数(数学)指導を行う。</li> <li>・通室期間は原則最長6か月間となっており、短期間で効率よく学校生活に必要な日本語を習得できるよう、日常会話や学習の中で日本語を繰り返し聞いたり話したりすることに重点を置いて指導している。</li> </ul>				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		通室児童生徒への指導の充実と在籍校への引継ぎ				
	達成指標の成果	6名: 那一(1)、那加(1)、 鷲一(2)、鷲三(1)、 桜丘(1)	5名: 陵南(1)、那一(1)、 川島(1)、那三(1)、 蘇中(1)	8名: 蘇一(1)、鷲三(2)、 川中(1)、緑陽(1)、 桜丘(1)、蘇中(2)	6名: 中央中(1)、桜丘(1)、 蘇中(1)、蘇一(1)、 那三(1)、陵南(1)	6名: 那二(2)、中央小(1)、 蘇一(1)、蘇二(2)
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	47千円	55千円	81千円	82千円	74千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	令和6年度においては、14人の外国人児童生徒が編入、転入してきた際に、Futuro教室を利用し、在籍校へつないでいった。				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校からの情報をもとに、Futuro巡回指導員が、各校の該当する外国人児童生徒の様子を見たり、保護者と懇談したりして通室について相談した。</li> <li>・転入手続きの際に、日本語の習熟度を確認し、Futuro教室への通室を進めたり、すぐに見学できるようにしたりすることで、通室につなげることができた。</li> </ul>					
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	日本語能力の不十分さが、学校生活への不適応や問題行動につながりやすく、外国人児童生徒の居場所づくりのために、一定期間集中して基礎的な日本語の指導が受けられる場が必要である。	
		必要性②	◎		新学習指導要領総則に、日本語の習得に困難のある児童生徒への指導が明記されており適切な指導や支援が必要である。	
		効率性	◎		那加第二小学校にFuturo教室があることで、公共交通機関を使用や保護者の送迎により通室しやすくなった。	
		有効性	○		巡回指導員の対応言語がポルトガル語・タガログ語・英語であるが、それ以外の言語を母語とする外国人児童生徒の増加により、対応が多様化してきた。	
		今後の方向性	拡充・重点化		通室する外国人児童生徒は、学校生活を送ることや学習内容を理解することが困難なため、Futuro教室での指導を通して、学校生活に適応できる力を付けることは非常に大切である。	
A C T I O N	外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が増加する中、大切な事業だと思う。子ども達には日本人、外国人という壁はないように思う。親とのコミュニケーションが大切だと思うのでいろいろと工夫して対応して頂けると良い。</li> <li>・様々な対応に柔軟に取り組むためにも、横の連携を広げていくことができるとよいのではないかと。</li> <li>・以前に外国人児童に関わったことがあり、その際の両親への通訳等の対応は非常に良かった。今後もポジティブに対応を続けていけるようにしてほしい。</li> <li>・緑苑小学校から那加第二小学校に移転し、ブラジル籍だけでなく、多国籍にわたり指導していることから、大変重要な支援であると考えている。今後、少子高齢化が進み働き手が少なくなった時、望む望まないに関わらず海外からの移民受け入れが進む事であろう、その日のためにもシステムとしてしっかり本市に位置づける必要がある。孤立させることなく多文化共生社会のためにも十分な人的物的な予算措置を望みたい。</li> </ul>				
	令和6年度を終えての課題	ベトナムやパキスタン、中国など国籍が多様化し、ポルトガル語・タガログ語・英語で補うことができないことが増えた。宗教や文化の違いにより、様々な対応が必要になっている。				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットや翻訳アプリ等を活用し、多様な言語に対応していく。</li> <li>・宗教的な配慮や文化による違いについて理解に努め、保護者や学校と連携して進めていく。</li> </ul>				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウィルスの影響の有無	無
担当課名	学校教育課

P L A N ・ D O	事業番号	5				
	基本施策	安心して学べる教育環境の提供				
	事業名	部活動地域展開事業				
	事業目的	部活動の地域移行に向けて、生徒が希望するスポーツ活動や文化部活動に親しむ機会の保障とより質の高い指導等を受けることが可能な環境を整備する。				
	事業内容	学校部活動の地域移行先として、既存の団体を活用する形で保護者会ジュニアクラブとスポーツ協会ジュニアクラブの2つの形態を構想し、指導者への謝礼金の補助や市施設利用額の減免、指導者の確保を行う。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	達成指標の成果					運動部活動の地域移行(ジュニアクラブ化)率:50%
	達成指標の成果					運動部の地域移行率:56%
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額					5,494千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に運動部活動のジュニアクラブへの移行を進めることができた。</li> <li>・ジュニアクラブの形態を保護者会ジュニアクラブとスポーツ協会ジュニアクラブの2つとして、各部活動の実態に合わせて部活動の地域移行を進めることができた。運動部の地域移行率(56%)</li> </ul>					
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	市内中学生の希望するスポーツ活動や文化活動に親しむ機会を保障するために必要である。	
		必要性②	◎		地域移行先の団体の確保のため、教育委員会がジュニアクラブの立ち上げを促す必要がある。	
		効率性	◎		現段階で行政からの補助による事業を推進することは必要である。	
		有効性	◎		在籍校に部活動がない学校からも加入することができるクラブチームもできた。	
		今後の方向性	拡充・重点化		平日部活動の地域移行について、本市におけるガイドラインを定め、見通しをたてる。	
外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決すべき課題も多くあると考えられるが、地域移行の進捗が遅れることのないように、計画的に事業を進められることが望ましい。また、地域移行の実施に伴い、指導者や保護者に過度な負担が生じてないかを把握することも必要であると思う。</li> <li>・人間形成について大事な時期の活動だと思うので、自治体からの支援等、学校・地域との連携を願う。指導者確保の地域格差や、部活動に所属しない生徒への配慮も大切にしてほしい。</li> <li>・教師の本業の負担にならなくて良いと思う。地域にいる専門的な指導者の発掘が鍵となると思う。学校の枠を超えて交流ができて良い。</li> <li>・教師の働き方改革と少子化、子どもたちの放課後の選択肢の多様化で学校部活のあり方は変わりつつある。この改革を早急に展開していく上で地域社会の協力は必須である。よって、ノウハウを持つスポーツ課などの専門的な部署とも連携が重要になってくるのではないだろうか。課をまたいだ横断的な組織が必要だと考える。例えば【部活動地域展開室】のような組織を持ってスピーディーかつ柔軟に対応出来るようにしないと遅れてしまう気がする。</li> <li>・地域指導者に対する謝金の問題も教員に支給されている土日部活の手当以上を支給しないと善意に甘えていては申し訳ないと思う。まだまだ問題は多いと思うが早急に進めてほしい。</li> </ul>					
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	運動部の地域移行率が56%であり、これをさらに増やすとともに、文化部系部活動の地域移行も進める。				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域等で指導者の確保を行い、地域移行をより進めていく。</li> <li>・文化部活動の地域移行を進めるため、活動場所を確保(学校施設の利用等)する。</li> </ul>				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	学校教育課

事業番号		6				
基本施策		安心して学べる教育環境の提供				
PLAN ・ DO	事業名	学校プールのあり方検討事業(水泳教育推進事業)				
	事業目的	水泳授業のあり方を検討し、市民プールや民間プールの活用によって、水泳授業の充実と施設管理負担軽減を目指す。				
	事業内容	水泳授業の充実と学校プールの施設管理負担軽減のために、市民プールや民間プールの活用、小学校プールの共同利用を行い、外部プール活用の有効性を検証する。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	達成指標の成果					小規模校での市民プール、民間プール、小学校プール共同活用の検証
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額					1,989千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等					
	実績・成果					<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模小学校(稲羽東小、緑苑小、尾崎小)において外部プールの活用を試験的に実施した。稲羽東小が市民プール、緑苑小がコパン鶴沼、尾崎小が那加第二小プールを利用した。実施後に行った児童アンケートでは、肯定的な回答が90%を上回った。</li> <li>・専門指導者からの指導により泳力向上が期待できた。</li> <li>・天候の影響を受けにくく、計画通りに実施できた。</li> <li>・プール施設管理、水質管理等、教職員の負担を軽減することができた。</li> </ul>
	CHECK	自己評価	必要性①	◎	評価理由	実施後のアンケートから、外部プールの活用が小学校水泳授業の充実につながる事がわかった。
			必要性②	◎		今後の学校プールの維持管理負担の軽減のために必要な検証である。
効率性			◎	複数校での検証をすることで、様々な方法で検証をすることができた。		
有効性			◎	市内小学校の外部プールの活用に向けた検証を行うことができた。		
今後の方向性			拡充・重点化	外部プール活用校を拡大することで、小学校水泳授業の充実に繋げる。		
外部評価委員の知見					<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部プール活用の検証では、保護者の感想も参考にするとよいのではないかと。</li> <li>・施設管理負担軽減を目的とした本事業は、非常に有意義であると考えられる。加えて、使用されなくなったプールの取扱いについても併せて検討されることが望ましい。</li> <li>・老朽化したプールの改修費とスイミングスクールのプール利用との経費の比較が問題となっているようだが、場所の提供だけでなく、専門指導を受ける事の出来るスイミングスクールの方が子どもの泳力アップのためには格段に効果がある。是非進めてほしいものである。</li> <li>・市内のプールは市営民営含めても数に限りがある。ほとんどが温水プールであるので、夏場にとらわれず、1年を通して水泳の授業がどれくらい必要であるか等、指導計画を見直す事も大切である。</li> <li>・将来、川や海での事故に遭わないためにも水泳の指導は大切である。民営の経費や移動方法について検討事項に含め、家庭に過度な負担が生じないように考えていってほしい。</li> <li>・プールの維持管理費が増大する中、外部プール活用の拡大は必要である。今後学校施設の老朽化や小中学校再編等もあるので多角的に検討してほしい。</li> </ul>	
ACTION	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校プールの共同利用は、時間割の調整に困難さがある。</li> <li>・市内小学校の外部プール活用に向けて、実証校の拡大が必要である。</li> <li>・施設については担当課と連携していく。</li> </ul>				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	外部プール活用小学校の拡大(八木山小、各務小)				

# 令和6年度事業点検・評価シート

		新型コロナウイルスの影響の有無	無		
事業番号	7	担当課名	教育総務課		
基本施策	学校等施設・設備の充実				
事業名	新特別支援学校整備事業				
事業目的	各務原市には、知的障がいのある高等部生徒を対象にした市立各務原特別支援学校があるが、肢体不自由等の障がいのある高等部生徒や、特別支援学校へ通うことが望ましい小・中学校の児童生徒を受け入れる特別支援学校がない。高等学校を卒業するまでの一貫した特別支援教育を推進し、障がいのある児童生徒を支援していくため、新たに市立の特別支援学校を整備する。				
事業内容	小学部から高等部までの、知的障がい、肢体不自由、病弱のある児童生徒を受け入れる新しい特別支援学校を整備する。児童生徒、教職員、保護者、地域の方など誰もが使いやすいものとなるようハードとソフトの両面から検討を行い、整備を進めていく。				
達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	基本構想・基本計画の策定	造成・外構・グラウンド設計、建築設計、関係者ニーズ聞き取り、ソフト関係概要検討	用地取得、造成・外構・グラウンド設計、建築設計、造成工事、教育課程・バスルート・医療的ケア体制等の検討	建築工事、外構・グラウンド工事、教育課程・バスルート・医療的ケア体制等の策定	建築工事、外構・グラウンド工事、備品やバス等の購入、内覧会の実施ほか開校準備
達成指標の成果	達成	達成	達成	達成	達成
予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	25,966千円	81,354千円 (1,715千円)	595,567千円 (52,365千円)	2,592,962千円 (701,975千円)	4,604,999千円 (1,601,020千円)
前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書スペースのレイアウトを簡単に変更できるようにというご意見について、机等の組み合わせを変更する事で様々なレイアウトを簡単に変更できるようにした。</li> <li>・旧特別支援学校からの移設の際、木工加工機器については移設と合わせてメンテナンス等整備を合わせて行う委託を実施した。</li> <li>・スムーズな登校管理ができる様、スクールバス乗降管理システムを導入した。</li> </ul>				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスをはじめとした各種備品の契約から納品・検査まで滞りなく行えた。</li> <li>・有識者や関係者等で構成される特別支援学校整備に関する座談会で意見交換を継続した。</li> <li>・建物管理や給食調理、バス運行等複数年の委託業務を契約し、R7年度開校に向けての準備を実施した。</li> <li>・旧特別支援学校からの引越しについて、委託契約を結ぶ事でスムーズな移設が実施できた。</li> <li>・webサイト等にて会計年度任用職員募集開始案内を実施し、準備期間及び翌年度に必要な人数の会計年度任用職員を採用できた。</li> </ul>				
自己評価	必要性①	◎	評価理由	障がいのある児童生徒が市内で通学するために必要な事業である。	
	必要性②	◎		市で実施しなければ実現しない事業である。	
	効率性	◎		有識者や関係者等の意見を踏まえ、建築及び外構等の工事を完了することができた。	
	有効性	○		事業実施により市民の期待に応えることができる。	
	今後の方向性	休止・廃止		R6年度で事業終了	
外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から高等部までの一貫した特別支援教育を市立という形で実現したことは、今まで、市外の支援学校に通わざるを得なかった子どもや保護者にとって大変喜ばしいことであり、市として誇れることである。また、施設は地域にも開かれていることも支援学校が特別なところで無いということを周知する上で有効であると考えます。</li> <li>・予定通り開校できたことは大変良かった。今後は、早い段階から施設維持のために先を見据えた計画、予算をたてることが望ましい。</li> <li>・本市の特別支援教育の拠点として市内教員との人事交流や研修の充実が期待できる事もうれしいことである。閉鎖的になりがちであるので開かれた学校になるよう努めてほしい。</li> <li>・多方面からの意見を吸い上げ工夫がされて良い。無事に開校されたことは喜ばしく思う。素晴らしい学校なので、障がいのない子どもも時には加わり、何かできること壁がなくなり良いのではないかと思う。</li> <li>・すばらしい学校施設だと思うので、今後も学校内の施設やひばり喫茶等の学校開放について、市民向けに情報発信をしてほしい。</li> </ul>				
令和6年度を終えての課題	本事業は令和6年度で終了する。開校後、1日でも早くスムーズな学校運営を行っていく必要がある。				
課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	令和6年度までは教育施設整備推進室が担当としていた業務を、令和7年度は業務内容によって各担当課へ振り分けられるため、振り分け後の各業務がスムーズに進められる様、情報を共有していく。				

PLAN・DO

CHECK

ACTION

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	青少年教育課

P L A N ・ D O	事業番号	8				
	基本施策	家庭の教育力の向上				
	事業名	子育て広場(家庭教育学級)事業				
	事業目的	家庭は基本的な生活習慣や社会的マナーなど「生きる力」を育む教育の出発点であることから、親が役割や義務を認識し、責任を果たすことが出来るように「子育て広場」を開設し、幼・保30学級、小17学級、中8学級の全55学級の支援をする。				
	事業内容	家庭の教育力の向上をめざし、学校等を拠点として親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行っていく。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		参加者延べ人数 14,000人				
	達成指標の成果	15,624人	16,776人	13,434人	14,005人	16,743人
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	91千円	152千円	192千円	269千円	387千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	昨年度に引き続いてPTA専門委員会と連携して会議を開催すると共に、体制の整備を図った。				
実績・成果	各学級において、開催方法や内容を工夫しながら特色ある学習会を実施し、157回の学習会に延べ16,743人が参加した。					
C H E C K	自己 評価	必要性①	◎	評価 理由	家庭教育はすべての教育の出発点であり、核家族化、少子化などに伴い、家庭の教育力の低下が懸念されており、家庭が本来果たす役割を見つめ直す機会となっている。	
		必要性②	◎		家庭教育力の向上を図るため、良質な情報の提供や運営にかかる助成などの支援が必要である。	
		効率性	○		子育て広場学級長会を開催し、計画の立て方の説明や具体的な事例を紹介し各学級にあわせた活動をしている。	
		有効性	◎		家庭での教育力を高めるために親同士が学ぶ機会であるのみならず、交流の場としての役割も担っている。	
		今後の方向性	現状どおり		子育て広場をきっかけに、親として家庭での役割を学ぶ機会となっている。	
	外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保、小中学校とも、現在は、小規模な単位での活動が中心となっていると思うが、今後を見据えると、大きな単位での活動の場を設けることも必要ではないか。そうすることで、PTA組織がなくなった学校においても保護者が主体的に参加し、学びや交流の機会を得られる場の提供が可能である。</li> <li>・予算の増加ぶりを見ると力が入っていることがわかる。学力の向上のみならず、「生きる力」を育むこのような取り組みは大切な事業だと思う。特にPTA組織がない学級は困難かもしれないがとても大切だと思うので力を入れてほしい。</li> <li>・今後、共働き家庭が多いなどの理由で、PTAのあり方いろいろと変化すると思う。運営に対してPTAの関わりが強いように見えるが、保護者、自治会、民生委員、児童委員などを交えて地域での懇談会等があっても良いのではないか。</li> <li>・家庭教育という堅い感じがするが「子育て広場」という明るく誰でも参加しやすいネーミングが好ましく感ずる。青少年教育課が各学校・園の委員長に対する支援体制も充実した感がある。</li> <li>・1年単位で活動するが故に、最近は課題を持って、子育てを学ぶ講座を実施するところより、安直に体験的な活動を企画するところが増えてきているのではないだろうか。今、求められている今日的な家庭教育における課題を青少年教育課が明確に示していくことも大切なことではないだろうか。各園や校の自主的運営に任せるところと青少年教育課がイニシアチブを取って行くところとを分けて提示するのも大切ではないだろうか。</li> </ul>				
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	運営にあたってはPTAの関りが強いが、PTA組織がなくなった学級については保護者の協力を得ることが難しくなっている。				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級リーダー研修会や県が発行する家庭教育学級応援通信などにより他市町の運営を紹介するなど、内容の充実が図れるよう支援していく。</li> <li>・家庭の教育力の向上をめざし、学校等を拠点として保護者が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行っていく。</li> <li>・保護者の関りが希薄になった学級においては、学校等の担当者を中心として学習機会の継続に努めていく。</li> </ul>				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	いきいき楽習課

事業番号	9									
基本施策	生涯学習の充実									
事業名	生涯学習講座実施事業									
事業目的	多様な生涯学習講座の開催や生涯学習に関する情報発信により、学びのきっかけづくりを推進する。クラブ・サークルの活動を支援するとともに、多様な主体との連携・協働により、生涯学習の活性化を図る。									
事業内容	ライフステージに応じた「長期講座」「短期講座」「夏休み子ども講座」など多様な講座を実施する。「生涯学習情報誌」や「夏休み子ども講座」のチラシを発行する。「パスポート」「認定証」の発行により学習意欲の促進を図る。									
達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度					
	生涯学習講座等の内容に満足した参加者の割合 目標値:UP									
達成指標の成果	88.6%	93.9%	92.4%	93.8%	91.04%					
予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	11,393千円	15,751千円	14,096千円	13,478千円	13,283千円					
前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者、子育て世代、現役世代などの受講生が増えるよう、夜間や土日の講座を増やした。</li> <li>・一部の講座において、対象者を設定することで、ターゲットの方が参加しやすくなった。(男性限定など)</li> <li>・夏休み子ども講座の募集方法をチラシの配布から連絡システム(スマート連絡帳)での周知に切り替えることで、印刷費の削減を図った。</li> </ul>									
PLAN・DO	実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4館のライフデザインセンターにおいて、生涯学習講座を開催した。</li> <li>・生涯学習情報誌(春号・秋号)を全戸配布、夏休み子ども講座はスマート連絡帳を活用し、事業の周知を図った。</li> <li>・夏休み子ども講座は、子どもたちが夏休みに楽しく体験できる講座を56講座開催したほか、各ライフデザインセンターで「ららら子ども講座」動画を作成し動画共有サービス(YouTube)で配信するなど、子どもたちの体験機会の創出を図った。</li> <li>・ライフカレッジ・ハイカレッジ卒業生を対象に「えんむすび」「しこうのじかん」「一期一会」を開催し、高齢者の学びの機会の創出を図った。</li> </ul>								
		※生涯学習講座実施状況(講座数・受講者数)								
		◆ライフデザインセンター(4館合計)								
				H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
		長期講座	講座数	194	193	94	201	194	207	210
			参加者数	3,797	3,716	1,244	2,773	3,047	3,456	3,342
		短期講座	講座数	208	177	64	108	148	157	153
			参加者数	3,590	3,013	808	1,434	2,023	2,731	2,972
		ライフカレッジ	講座数	9	9	9	9	9	8	8
			参加者数	501	543	329	233	228	272	275
ハイカレッジ かかみがはら健やか楽習	講座数	2	2	2	2	2	2	4		
	参加者数	89	92	55	68	61	59	153		
合計	講座数	413	381	169	320	353	374	375		
	参加者数	7,977	7,364	2,436	4,508	5,359	6,518	6,742		
クラブサークル発表会	団体数	275	229	10	30	208	193	172		
	参加者数	4,672	4,159	77	395	2,653	2,572	2,635		
ライフデザインセンター 利用者数	団体数	7,170	6,838	4,852	5,123	5,751	6,435	6,548		
	参加者数	191,439	165,710	79,393	105,954	120,665	132,488	131,687		
CHECK	自己評価	評価理由	必要性①	◎	多様な学びの機会を創出することで、豊かで活力ある生活や、生きがいづくり、人とのつながりづくりに寄与している。					
			必要性②	○		公民館活動として生涯学習講座を開催することは必要である。				
			効率性	○		庁内各課と連携して「夏休み子ども講座」のチラシを作成したことで、多様な講座を分かりやすく紹介することができ、参加者の増加につながった。				
			有効性	◎		9割の参加者が講座後のアンケートで「満足」と回答している。				
			今後の方向性	現状どおり		民間のカルチャーセンターとの差別化を図り、公民館活動として、多様化する現代社会で市民に必要とされる内容の講座を推進していく。				

ACTION	外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい形へと改善しようとする姿勢が感じられた。見学や気軽に参加できる機会を設けることで、受講意欲の向上につながるのではないか。</li> <li>・生涯学習講座という時間に余裕のある人ための物というイメージが大きいが本市の取り組みは夜間の講座を設けたり、夏期休業中の生徒のために生徒支給のタブレットを活用した連絡方法を活用するなど、まずは講座内容を広く知らせるという工夫が評価できる。そして、その内容についてもネーミングや配信による講座の機会を増やす方法、卒業者にさらに働きかけ、高齢者の学びの機会を広げるなどの効果は着実に講座数や参加人数の増加に反映されてきている。これからもどんどん進めていってほしい。</li> <li>・各ライフデザインセンター利用者数が多いのですごいと思う。生きがいづくり。人とのコミュニケーションづくりは必要だと思うので、今後も継続してほしい。</li> <li>・健やか楽習の参加者数の増加が著しく、その要因を探り、今後に更に生かしてほしい。</li> </ul>
	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者、子育て世代、現役世代の受講者が少ない。</li> <li>・個人が学んだ知識を地域の課題解決や地域のつながりづくりへと役立てられるよう、つながりづくりに力を入れた取り組みを推進する。</li> </ul>
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者、子育て世代、現役世代の受講者が増加するよう、平日夜間や土曜・日曜開催の講座を充実させるなど、より参加しやすくなるアプローチを検討していく。</li> <li>・人口減少対策事業の一環として、父親支援事業を開催する。</li> <li>・市役所の関係各課や関係機関と協力連携し、市の施策や社会情勢に対応した講座を積極的にも展開していく。</li> <li>・講座の受講生のつながりづくりや、講座終了後のクラブ・サークル化を推進する。</li> <li>・健やか楽習(ライフカレッジ、ハイカレッジ等)については、単年度の講座として、65才以上の方が誰でも参加できるように変更する。</li> </ul>

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
-----------------	---

事業番号		10			担当課名	文化財課
基本施策		歴史・文化遺産の保護と利活用				
事業名		文化財保護管理事業				
事業目的		市内の指定・登録文化財を適切に保存・管理し、後世に継承するとともに、文化財に関する普及啓発や利活用を行うことで、文化財の愛護意識や郷土への誇り・愛着を醸成する。				
事業内容		国指定文化財(名勝木曾川、特別天然記念物)の現状変更に関する各種手続きを行うとともに、市が管理する村国座等の文化財施設を管理・活用する。				
達成指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		村国座利用者数 2,000人	村国座利用者数 2,100人	村国座利用者数 2,205人	村国座利用者数 2,315人	村国座利用者数 2,431人
達成指標の成果		855人	1,043人	2,667人	1,689人	2,445人
予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額		6,508千円	7,692千円	8,358千円	8,002千円	9,929千円
前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等		川崎山薬師寺所有の聖観音菩薩立像が、12世紀頃(平安時代後期)の仏像の特徴を持つもので、市内では最古級であることが判明し、8月に各務原市重要文化財に指定となった。同寺の協力を得て、中央図書館3階の歴史ギャラリーにて特別公開するとともに、講演会「聖観音～文化財指定までの道のり～」を開催した。				
実績・成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定文化財(名勝木曾川、特別天然記念物)の現状変更に関する各種手続きを行った</li> <li>・各種法令に基づき、市内の文化財及び市が所有する文化財施設を適切に保存・管理した。市重要有形民俗文化財「皆楽座」については、指定管理(市施設振興公社)により管理・運営を行った。</li> <li>・国重要有形民俗文化財「村国座」については照明設備、剥落した漆喰壁の修繕、用水転落防止柵、楽屋空調の更新を行った。</li> <li>・村国座の利用状況は、見学・貸館合わせて21件・2,445人と、大幅増が見られた。(大幅増は長期開催となった未来文化財団による「浅野孝之陶芸展」、市文化財課による「坪内節太郎絵画展」と、村国座子供歌舞伎が試楽祭、本楽祭の2日間開催となったことによる)</li> </ul>				
自己評価	必要性①	◎	評価理由	文化財は、一度損傷・滅失すれば決して元には戻らないものであり、その適切な保存・管理は自治体の責務である。		
	必要性②	◎		文化財の積極的な活用により、地域の歴史や文化への誇りや愛着を醸成することができる。		
	効率性	○		史跡に自生する樹木等については地域住民からの要望も高く、より効率的な業務計画を策定する必要がある。		
	有効性	◎		文化財を適切な状態で保存管理し活用することが、郷土愛の育成にとって有効である。		
	今後の方向性	現状どおり		文化財の保存と並行して、より積極的な活用に重点を置き事業を遂行していく必要がある。		
外部評価委員の知見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・村国座の利用が年々増加し、人数も2.8倍となり素晴らしいと思う。大切な文化財なので、しっかり管理をし、有効活用して頂きたい。展示会なども行われていると伺い、もっと有効活用が出来そうな気がする。</li> <li>・貴重な文化財だからといって厳重に保護することも大事だが、大切にながらも工夫し活用していくことが重要だということが、村国座の効果的な活用の実態や利用者数の増加からもよく分かった。歴史遺産である村国座や皆楽座を他の目的で貸館として活用するアイデアもこれからの各務原市の文化財保護の新しい視点であると感じた。</li> <li>・昨年市内で発見された仏像が非常に貴重なものであったということが分かったというが、まだ他にも埋もれている文化財があるかもしれないので、調査し、守りでなく挑戦・発信し続ける文化財課でいてほしい。</li> <li>・木曾川学シンポジウムのような他の自治体等とのコラボレーション含めたセミナーをまた計画してほしい。</li> <li>・冊子『かかみがはら百科』は非常に興味深く市民や子どもたちが各務原市の文化財に関心をもつ良いきっかけになると感じた。今後、こうした冊子もより幅広く活用できるとよい。</li> </ul>				
令和6年度を終えての課題		引き続き、修繕等市内文化財施設の適切な管理に努めていく。活用については「村国座」「皆楽座」を貸館施設として貸し出し、歴史的建造物を広く利用していただくユニークメニューの取り組みを続けていく。また、市内小中学生に見学等で利用していただけるよう、学校等と連携を図るとともに、ニーズの拡大に伴い新たなボランティアガイドを育成する。				
課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性		重要有形民俗文化財の村国座は、利用して活用することが求められる性質の文化財であり、従前の子供歌舞伎に加え、多くの市民に利用していただく。市所在の文化財について価値づけを行い、必要な文化財指定などを行うことによって後世に引き継ぐ。令和6年度に国の指定史跡となった坊の塚古墳など市域を超えて、他の自治体とともに魅力を発信したい。冊子『かかみがはら百科』は年報として1年の成果を発信するとともに、市民に幅広く活用していただき、文化財に関心を持っていただけのように工夫し、充実に努めていく。文化財施設の草刈り、樹木の管理について地域住民からの要望が高く、計画的に実施する。				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	スポーツ課

P L A N ・ D O	事業番号	11				
	基本施策	地域スポーツ活動への支援				
	事業名	スポーツ指導者養成事業				
	事業目的	スポーツ少年団やスポーツ協会の指導者を対象に、コーディネーショントレーニング等の指導者養成講座等、多彩な指導方法が習得できるよう支援します。				
	事業内容	指導者養成講座の開催やスポーツ協会を通じた資格取得助成により指導者の育成、資質向上を行う。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	達成指標の成果	中止	中止	達成	達成	達成
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	8千円	15千円	104千円	124千円	154千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	スポーツ協会による指導者資格の取得助成対象となる講習範囲を拡大した。				
	実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導者養成事業(コーディネーショントレーニング)を基礎編と実践編の2回開催した。参加者の合計は124人であった。昨年度より申込者が減少した。</li> <li>・スポーツ少年団指導者養成講習会、資質向上研修会を開催した。</li> <li>・スポーツ協会を通じ指導者資格助成を行った。</li> </ul>				
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	指導育成や指導者の資質向上はスポーツの普及に必要不可欠である。	
		必要性②	◎		指導育成や指導者の資質向上は、行政が担う必要性が高い。	
		効率性	◎		講習会の講師を本部役員が行ったり、スポーツ協会にて指導者資格取得の助成を行う等効率的に事業を推進している。	
		有効性	◎		指導にはスキルが必要であるためその取得のための事業は有効性が高い。	
		今後の方向性	現状どおり		地域スポーツ活動の振興の引き続き事業の開催をしていく。	
外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い指導者をどのように確保していくかが今後の課題になると思う。難しいかと思うが、人材はいると思うので力を入れて頂きたい。</li> <li>・今後、指導者育成も兼ねてかかみがはら支援学校体育館にて児童生徒や保護者など軽スポーツ活動しても良いのではないか。</li> <li>・スポーツ指導をする人材に対し、コーディネーショントレーニングを核にして指導技術だけでなく、人材育成にもつながる研修をしていることは有意義である。技能面だけでなく指導者として人間性の向上にも力を入れてほしい。</li> <li>・学校教育課と連携し、部活指導に当たる人材に対しても同様の研修を行い、一貫した指導理念がどのスポーツでもどの場所でもどの年代でも見られるようスポーツ課のリーダーシップに期待したい。</li> <li>・必要性がある事業であるならば、より効果的な実施につなげるためにも、開催時期や周知方法などを見直すことも一つの方策ではないか。</li> </ul>					
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児や小学生低学年に身体を動かす楽しさを教える質の高い指導者の確保が必要不可欠である。申込みが減少していることや、スポ少以外の参加者が少ないため、学校や保育園の先生などが参加いただけるようにより周知が必要である。</li> <li>・障がいの有無に関わらず参加できるポッチャ等軽スポーツの指導者養成についても、今後検討していく必要がある。</li> </ul>				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	指導者の資質向上と、各スポーツにおける指導者の高齢化や人材不足を解消するため、引き続き指導者を育成して効果的な施策を行う。				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	スポーツ課

P L A N ・ D O	事業番号	12				
	基本施策	地域スポーツ活動への支援				
	事業名	軽スポーツ用具貸出事業				
	事業目的	近年、健康に対する意識の高まりから、身近な地域で気軽にスポーツに親しむ機会が求められおり、子どもから高齢者や障がい者が親しむことのできる軽スポーツの普及促進は、健康的で活力ある地域づくりに寄与するものとして期待されている。				
	事業内容	幅広い年齢層が楽しむことができる軽スポーツの普及促進を図るため、市内団体に対し軽スポーツ用具の貸出を行う。				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		貸出250件				
	達成指標の成果	46件	27件	127件	148件	203件
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	171千円	255千円	335千円	107千円	66千円
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽スポーツ交流会や大会のときに、軽スポーツ用具を自治会の行事などで活用していただくよう参加者へPRをした。</li> <li>体育振興会連絡協議会の理事会にて軽スポーツ用具一覧を配布し、各校区の行事などで活用していただくよう案内した。</li> </ul>				
実績・成果	コロナが感染症法上の5類に移行し、自治会行事などで使用する貸出件数は徐々に回復してきており、令和6年度は203件の貸出を行った。					
C H E C K	自己評価	必要性①	◎	評価理由	軽スポーツは、年齢や障害の有無に関わらず実施でき必要性が高い。	
		必要性②	◎		誰もがスポーツを始められて継続できる環境づくりのため用具の無料貸出は必要性が高い。	
		効率性	◎		必要最低限の人員予算で実施している。	
		有効性	◎		気軽にスポーツを体験できる環境づくりのため無料で用具を借りられる事業の有効性は高い。	
		今後の方向性	現状どおり		コロナの影響により激減していたが、コロナが感染症法上の5類に移行したことで需要が多くなっており、引き続き事業を行っていく。	
外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理の委託業務の中に一部として実施したほうが良くなるのではないかと。</li> <li>私はこのような事業があったことを初めて知ったので、市民にスポーツが広まるよう、貸出のPRを更にしていただきたい。</li> <li>軽スポーツ支援は高齢者のフレイル予防・自治会・子ども会・教育現場の活動等に大変有効な支援の一つである。自分たちの団体や組織で準備するとなると予算的にも難しいが市が用意していただけるということは大変ありがたいものである。</li> <li>ホームページを使った紹介方法も便利である。ただし、スマートフォンで各務原市のウェブサイトを検索しても出てこない。こうしたところの工夫改善が今後、出来るようになるともっと借りやすいと考える。</li> <li>達成指標については、算出の根拠を明確にするとういのではないかと。また、事業全体における一貫性を確保することが、より円滑で意味のある事業運営につながると考えられる。</li> </ul>					
A C T I O N	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>古くなった用具の交換等を行っているが、未だ交換が必要な用具がある。</li> <li>貸出数は増えているが、目標の250件には達していない状況。</li> <li>事業をさらに広く周知できるようホームページの内容について検討が必要である。</li> </ul>				
	課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から定期的に用具の点検を行う。特に貸出しが少ない用具は、注意が必要である。</li> <li>視覚的にも分かりやすいようにホームページへの用具写真の追加や、新しい用具の導入についても検討し、貸出件数の増加に努める。</li> <li>引き続き、貸出し事業を行い市民生活にスポーツが定着することを目指す。</li> </ul>				

# 令和6年度事業点検・評価シート

新型コロナウイルスの影響の有無	無
担当課名	教育施設整備推進課

PLAN・DO	事業番号	13				
	基本施策	スポーツ施設の充実				
	事業名	新総合体育館整備推進事業				
	事業目的	現在の各務原市総合体育館は、昭和58年に建設したものであり、全体的に施設の老朽化が進んでいる。また、メインアリーナや観客席等に空調設備がないことをはじめ、バスケットボールコートやハンドボールコートが一部の規格に適合していない、各種大会の際に駐車場の不足といった様々な課題がある。こうした課題を解消し、市民のスポーツニーズに対応するとともに、防災機能を併せ持ち、安全・安心のよりどころとなる新たな総合体育館を整備する。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の総合体育館がもつ課題を解消する新しい総合体育館を整備する。</li> <li>「誰もが快適に使用でき、健康づくりを楽しむ、にぎわいと交流、安全安心の拠点」を基本方針とし、子どもから高齢者や障がいのある方、スポーツをする人だけでなく、スポーツを見る人や支える人など誰もが快適に利用できる施設とする。また、スポーツ関係だけでなく、レクリエーションや音楽等、文化的な利用にも対応する。さらに、防災拠点としての機能を持たせることで、市民の安全安心のよりどころとなる施設とする。</li> <li>賑わいや防災の拠点とする観点から、体育館だけでなく敷地全体を総合運動防災公園として整備する。</li> </ul>				
	達成指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	達成指標の成果	達成	達成	達成	達成	達成
	予算・決算額(国県費等)※ 過年度は決算額	10,564千円	7,614千円	44,771千円 (5,797千円)	677,577千円 (240,238千円)	244,679千円 (176,763千円)
	前年度の評価委員指摘 に対する業務改善等	「完成した体育館が、いかに市民に使いやすく、また市の財産として次世代に残していけるものかに関心が向いている」という意見に対して、その意見をより正確に伝えるために、民間事業者に対する丁寧な事業説明会を開催するとともに、民間事業者との個別対話の機会を増やした。				
	実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFI手法に基づく入札公告を行うとともに民間事業者への説明会や個別対話を実施し、提案書提出までの準備を整えた。</li> <li>体育館の詳細な仕様について認識共有を図るため、種目協会との意見交換を行った。</li> <li>未就学児と小学生を対象に、新しい公園にできるプレイゾーン(広場)の使い方に関するアイデアコンテストを実施した。</li> <li>事業に関するかわら版を発行するとともに、webサイトにて事業に関する情報を都度発信した。</li> </ul>				
CHECK	自己評価	必要性①	◎	評価理由	市スポーツ協会や市議会スポーツ振興議員連盟から要望書が提出されている事業である。	
		必要性②	◎		市民スポーツや安全安心の拠点として市で実施しなければ実現しない事業である。	
		効率性	◎		関係者のニーズや先進地の良い点を計画に取り入れた。また、より効率的かつ効果的な公共サービスを提供するためPFI手法で実施する。	
		有効性	○		事業実施により市民の期待に応えることができる。	
		今後の方向性	現状どおり		引き続き、市教育委員会の重要事業として実施する。	
ACTION	外部評価委員の知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>いよいよ完成までの道筋および建物の全容が明らかになり、体育施設だけでなく防災の拠点となることもすばらしい。本市初めてのPFI事業による工事の進捗をどうかきちんと見届けてほしい。説明でいくつかの事業者が入ることのメリットは分かったが、デメリットが発生しないよう注意し、丸投げになることは避けてほしい。</li> <li>建設に反対の意見もあるようだが、スポーツ関係だけでなく文化的な利用や防災拠点としての機能を持たせるものと知り完成が待ち遠しい。PFI事業とのことで、公平さが保たれるように願う。</li> <li>現在、広範囲の造成工事途中であるが、今後周辺環境対策も配慮してほしい。</li> <li>今後も「かわら版」の定期発行を継続して情報発信をしてほしい。</li> <li>引き続き市民への情報発信をするとともに、計画的に事業が進むことを期待する。</li> </ul>				
	令和6年度を終えての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市にとって初のPFI事業であり、未経験の業務しかないことから、関係機関やコンサル等と十分に協議して遂行する必要がある。</li> <li>PFI手法では設計以降のスケジュールが民間提案によりフレキシブルに対応できるメリットがある一方、国補助金等については従来通り年度毎申請であるため、その調整を確実に行う必要がある。</li> </ul>				
課題に対する取組、事業効果向上に向けた次年度の取組や方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会内だけでなく、全庁的な情報共有を早め実施しながら、十分な協議期間を設けて着実に業務を遂行する。また、ノウハウや知見のあるコンサル会社と委託契約をし、適切にモニタリングしていく。</li> <li>国補助金等については関係省庁に都度説明や調整を行いながら確実に進めていく。</li> </ul>					